

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077200147		
法人名	医療法人社団 桜珠会		
事業所名	グループホーム可也 桜の里	(ユニット名	2F)
所在地	福岡県糸島市志摩師吉901-3		
自己評価作成日	平成22年8月12日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ではなく、皆が気軽に会話でき、家庭と思える様な雰囲気づくりに努めている。又、毎日、笑顔を引き出せる様、日頃のコミュニケーションや活動を大切にすると共に、入居者一人ひとりに合わせたサービスを提供できる様、職員一丸となり努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で考えた運営方針を母体法人理念とともに事業所理念としている。全体会議などで再認識できるよう働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に民家から少し離れていることと母体病院の横にあるため、地域との交流に苦慮しているが、地域の枠を広げて買い物や散髪などで対応している。また、餅つきの餅配りは定例化している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の在宅者支援会議に毎月出席しており、日常生活を送る上で私たちだからこそ気づく提案を行ったり、情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のサービス向上は運営推進会議、全体会議、家族会等の会議の共通議題とすることで意見や提案、改善内容など満遍なく行き渡らせている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の居宅介護支援事業所の連絡会など、この地域の連絡会は充実しており、頻繁に話し合いが行われているため顔を合わせ相談する機会も多い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、身体拘束にならないようなケアの方法について常に話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への虐待は、職員への関わり方や環境、ストレスが要因ではないかと考え、職員のストレスに関する勉強会を行い、職員の口調や態度の変化により、関わりを増やすなどして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加したスタッフによる伝達講習などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するまでに十分に時間をとり関係作りを行うことを大切にしている。また解約後も気軽に何でも相談していただけるよう必ず声掛けを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情になるまで気づけないことが無いように、日頃から何でも話せるような関係作りを大切にしている。必要であればすぐにミーティングを行っている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の運営に関しては、スタッフとチーフが話し合った結果に対して助言し決定するという体制を取っている。そのために日頃より報告、連絡、相談の体制を蜜に行い信頼関係作りを努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給及び賞与時には通常行っている職員個々の努力や実績等の報告をもとに査定されているため、管理者は積極的に働きかけている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	家族のような生活を事業所理念でも謳っており、幅広い年齢層や職歴の職員が必要だと考えている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サービス業である以上人権の尊重なくサービスの提供をすることは不可能であると考えているため、積極的に講習会に参加している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験やレベルに合わせて研修や勉強会への参加を万遍無く行い、毎月の全体会議では伝達講習や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地域ネットワークの様々な連絡会に参加しており、それらを通じて交流や勉強会を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面談を行い本人の思いなどを聞き不安を残さないようにしている。又、本人が安心できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時から家族と話し又、面談の立ち合いをして頂いている。気になる事等いつでも連絡して頂ける様、又こちらからも連絡をし関係作りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談後面談を行い、本人や家族の要望、求めている事を聞き、要望に沿ったサービス利用を考え対応する様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人生経験からの教えから学ぶことも多く、又その場面作りにも努めている。入居者と共に過ごし、一緒に行い喜びを共感し、信頼関係を構築している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と月に1回は必ず会い、様子や状態等を報告している。本人と一緒に支えていけるような関係を構築している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方へは、面会や電話も報告し出来る様にしている。こちらからも電話など出来るように支援している。ドライブや行事等を通して馴染みの場所にもいける様にしている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がゆっくりくつろいで話したり、過ごせるようにしている。一緒に物を作ったりと共に関われる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても、家族にいつでも相談して頂けるようにし、本人との面会や連絡をして頂ける様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の希望などを普段のコミュニケーションからも把握するように努め又、家族の方針についても聞き取りを行い、本人本位の支援が継続していける様に心がけている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の相談や、入居面談で情報収集に努めるとともに、入居後も継続して情報の把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居以前の情報に基づき、ホームでの生活に反映するようにしている。日々の観察などで健康、生活ならびに能力の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望や意向に基づき、主治医、リハスタッフ、グループホームの意見助言を頂きながら又、アセスメントを行い、介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、職員用ケアプランファイルなどを活用、毎日申し送りをし、ケアの実践、計画見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況やニーズに対して、家族も含め関係者の協力を得ながら対応するよう努めている。又、社会のニーズに対応していく為にショートステイも導入した。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴の中で、構築された関係者、病院、警察、消防、行政などの公的機関と協力をし、心理的、物理的な面をサポート出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族にかかりつけ医について意向を聞き、受診を支援している。常日頃から、病院、Drとの連携に努め、安心して医療が受けられるよう心掛けている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、常日頃の観察やケアで得られた情報を看護師と共有、相談を行い、受診支援や看護を受けられるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報の共有。常日頃から病院や主治医との連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期についての課題や問題に対し、包括的(マニュアル)、個別に対応している。各関係者と連携を図り、本人を中心としたチーム支援、実践に努めている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時などのマニュアル。定期的な勉強会。事例記録し、対応したことが見直し出来るよう心掛けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練実施。防災研修の参加をグループホームでの勉強会で実施。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念や方針の中でも、入居者の尊厳や言葉使いについて示しており、理念の共有・実践がプライバシーの保護にも繋がっている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人本位を心掛けており、希望や思いを聞いたら出来る様に援助している。本人に選んでいただき決定できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時その時で本人に聞き、希望に沿って過ごして頂いている。本人のペースで過ごして頂ける様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には髪、服を整えている。又、服など汚れたら着替える等支援している。外出時や行事の時は化粧やマニキュアをする等おしゃれが出来る様に支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等に心掛け、食欲が損なわないようにしている。季節を感じれる食事や行事の時などは、食事を考えたりと楽しめる様に支援している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	発注栄養士のもと、1日の栄養バランスが確保できるようにしている。又、食べやすいように刻みにしたりトロミをつけたりと状態に合わせている。水分量も1400cc取って頂くように支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回ポリドントを行い、夜間は義歯を預かり清潔に心掛けている。又、自力で出来ない方の口腔ケアの介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状態を把握し昼夜のトイレ誘導を援助している。又、1人1人に合ったパットを検討し使用している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、水分補給として牛乳を提供している。1か月に1回の定期受診で主治医に相談し本人に合った排便コントロールが行えるように支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて時間や入浴日の変更もやっている。又、同性介助を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望に合わせて休息を支援している。本人が安心して休める様に休息中は巡視を必ず行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに綴じ、職員がいつでも見れるようにしている。又、効能綴りも作成しており共に見れるようにしている。服薬ミスがないように見守りや介助にて服薬して頂いている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月行事を行い入居者が楽しめる様に支援しています。行事以外でも、入居者の希望に沿った事を行い、入居者同士が楽しめる様に支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブや外気浴を行っています。季節を感じられるような場所に行ける様に支援しています。又、家族にも外出や外泊の協力を依頼し、定期的に出掛けられる様に支援しています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金はグループホームにて預かり管理している。買い物時に一緒に行き、支払いをしてもらう様にしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をする際は、まず職員がかけ、本人に代わる様にしている。手紙やハガキの返事も書いて頂きやり取りができる様に支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビングには花を飾ったり、写真や画用紙で作った絵などを飾ったりと季節を感じられる様にしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方が休める様に、ソファを置き1人の時間が取れるようにしている。コミュニケーションが取りやすいようにテーブルをつけ会話できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で使い慣れている家具や食器などを使用している。本人や家族の希望に合わせて、家具の配置なども変え、本人が心地よく過ごして頂ける様にしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がリビング全体を見れるように、必ず1人はいる様にしている。居室の入口には名前を貼る等し、居室に帰れる様にしている。		